

事務事業名		商店街活性化対策事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05: 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目				
	施策名	21: 活気あふれる商業の振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01: 元気な商店街づくり					01	07	01	02	02
根拠法令	大船渡市補助金交付規則										
所属	部課名	商工観光部商工観光課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 - 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	商工係	電話	0192-27-3111							
			内線	112							
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 商店街が販売促進や集客のための事業を実施し、商店街の活性化を図る場合に補助する。 主な業務は、団体からの事業計画書提出、計画書の審査、団体による事業実施、現場確認、補助額請求書、事業実績書の提出、精査、支払。事業費は、対象事業への補助金として支出される。						全体計画 (期間限定複数年度のみ)					
						総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金		
									都道府県支出金		
									地方債		
									その他		
									一般財源		
									事業費計 (A)	0	
						人件費	正規職員従事人数				
							延べ業務時間				
							人件費計 (B)	0			
							トータルコスト(A) + (B)	0			

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
手段 (主な活動)		名称	
前年度実績 (前年度に行った主な活動)		単位	
下水道共益費負担金 (天神山下駐車場 339千円)		ア	制度案内通知発送団体
		イ	事業計画書受理件数
		ウ	補助金交付件数
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)		対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
岩手県中小企業団体中央会による商店街活性化事業の実施。		名称	
		単位	
対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		カ	市内各商店街等参加団体数
		キ	
		ク	
意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
○ 商店街が活性化する。		名称	
○ 魅力ある商店街化になる。		単位	
		サ	商店街が賑わい活性化等につながった事業の割合
		シ	
		ス	
結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
商店街が賑わっている。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
投入量	事業内訳	単位						
		千円						
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	0	500	500	4,000	16,798	339
	事業費計 (A)	千円	0	500	500	4,000	16,798	339
	正規職員従事人数	人		1	1	1	1	1
	延べ業務時間	時間		20	20	20	20	20
	人件費計 (B)	千円	0	80	80	80	80	80
	トータルコスト(A) + (B)	千円	0	580	580	4,080	16,878	419
活動指標	ア	団体	-	17	17	22	22	17
	イ	件	-	1	1	1	1	1
	ウ	件	-	1	1	1	1	1
対象指標	カ	団体	-	5	5	2	1	10
	キ							
	ク							
成果指標	サ	%	-	100	100	100	100	100
	シ							
	ス							

事務事業ID	0377	事務事業名	商店街活性化対策事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

開始時期は不明であるが、不景気による消費者の買い控えと、郊外型大型店の進出等により、商店街の売り上げが伸び悩み、経営者の高齢化により、商店街の空洞化が進んでいることへの対策として創設された。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

商店街からの消費者離れは改善が見られず、依然として活力の衰退が続いている。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

市議会議員よりよさ恋グループの責任者から商店街の活性化対策として、本事業の継続を望む声とともに、補助金だけではなく人的援助を求める話があったとの要望が寄せられた。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] プレミアム商品券発行により、市内商店街に対する関心が高まり、商店街の活性化につながっている。 また、茶屋前商店街駐車場の区画線を引きなおすことにより、買い物客の利便性の向上につながっている。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 商店街の活性化を図ることは、街に活力を与え、市経済の活性化につながるものである。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 活性化を図ることを意図として、当事者である市内商店街等を対象としており、妥当である。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 単発的な事業のため、経済効果の継続的な向上につながらない。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 実施主体の負担が増すことから、商店街における独自イベント等の開催は非常に困難な状況となり、商店街の衰退を招く恐れも生ずる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない [理由] 類似事業として中小企業振興事業があるが、本事業は商店街の活性化を目的として、対象を商店街に絞り込んでおり、統合は出来ない。 ☐ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 事業費の削減は、成果に直接的に影響を及ぼすため、削減の余地はない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 現状の人員、体制は、必要最小限のものである。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 対象を商店街に絞り込んでいるが、毎回申請内容を審査しており、同一団体への安易な継続的助成は行われていない。また、イベント等に際して、経費の相当部分を、実施主体となる団体が独自負担している。

事務事業ID	0377	事務事業名	商店街活性化対策事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 商店街の活性化のためには、集客の継続が図られるような事業の展開が望ましく、効果的なアイデアが創出されるよう、積極的に協議を行っていくことが必要と考えられる。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 多種多様なアイデアに対応できるよう、事業費の拡大を図る必要がある。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上			●																			
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 売り上げの伸び悩みに加え、商店街経営者の高齢化によって、商店街としてのイベント等への取り組み姿勢が消極的となっているため、先頭に立って商店街の活性化に取り組む人材の育成が必要である。																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	商工観光物産課長
-------	----------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 事業の意図等を的確に把握しており、適切な評価となっている。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 商店街の活性化のため、継続した集客が図られるような事業を展開するよう指導する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上			○																				
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 政策推進会議等での指摘事項
